

全線開通30周年を迎えた九州自動車道

- 九州自動車道は、1971年（昭和46年）に**九州初の高速道路**として植木IC～熊本IC間が開通し、1995年（平成7年）の人吉IC～えびのIC間の完成により全線開通しました。
- 2025年（令和7年）に九州自動車道は**全線開通30周年**を迎えました。

九州自動車道のあゆみ

九州自動車道（門司IC～鹿児島IC） 延長：345.3km

年月	開通区間 完成IC・JCT等	あゆみ
1971.6 (昭和46)	植木IC～熊本IC	九州初の高速道路が完成
1975.3 (昭和50)	古賀IC～鳥栖IC（JCT）	福岡県から熊本県が高速道路で接続
1988.3 (昭和63)	小倉東IC～八幡IC	九州（熊本県（八代IC）以北）から本州へ連続走行が可能に
1995.7 (平成7)	人吉IC～えびのIC （暫定2車線）	九州自動車道 全線供用 ～青森から鹿児島・宮崎まで高速道路ネットワークが完成～
1998.4 (平成10)	八代JCT	南九州西回り自動車道と接続
1999.3 (平成11)	太宰府IC （福岡都市高速連結）	福岡都市高速道路と接続
2001.3 (平成13)	サガノクロス橋 （鳥栖JCT直結ランプ橋）	長崎自動車道と九州自動車道がランプ橋で接続
2001.12 (平成13)	加治木JCT	東九州自動車道と接続
2002.3 (平成14)	福岡IC （福岡都市高速連結）	福岡都市高速道路と接続
2004.12 (平成16)	人吉IC～えびのIC	4車線化完成 （九州自動車道が全線4車線以上に）
2006.2 (平成18)	北九州JCT	東九州自動車道と接続
2014.3 (平成26)	嘉島JCT	九州中央自動車道と接続
2025.7 (令和7)		九州自動車道 全線開通30周年

■ 開通式



■ 北九州市門司～鹿児島市間の所要時間推移



出典：昭和43年度、平成6年度、令和3年度
全国道路・街路交通情勢調査

九州自動車道の変遷

九州初の高速道路が開通
(1971年)九州自動車道が全線開通
(1995年)九州道から広がるネットワーク
(2025年)

—：九州自動車道

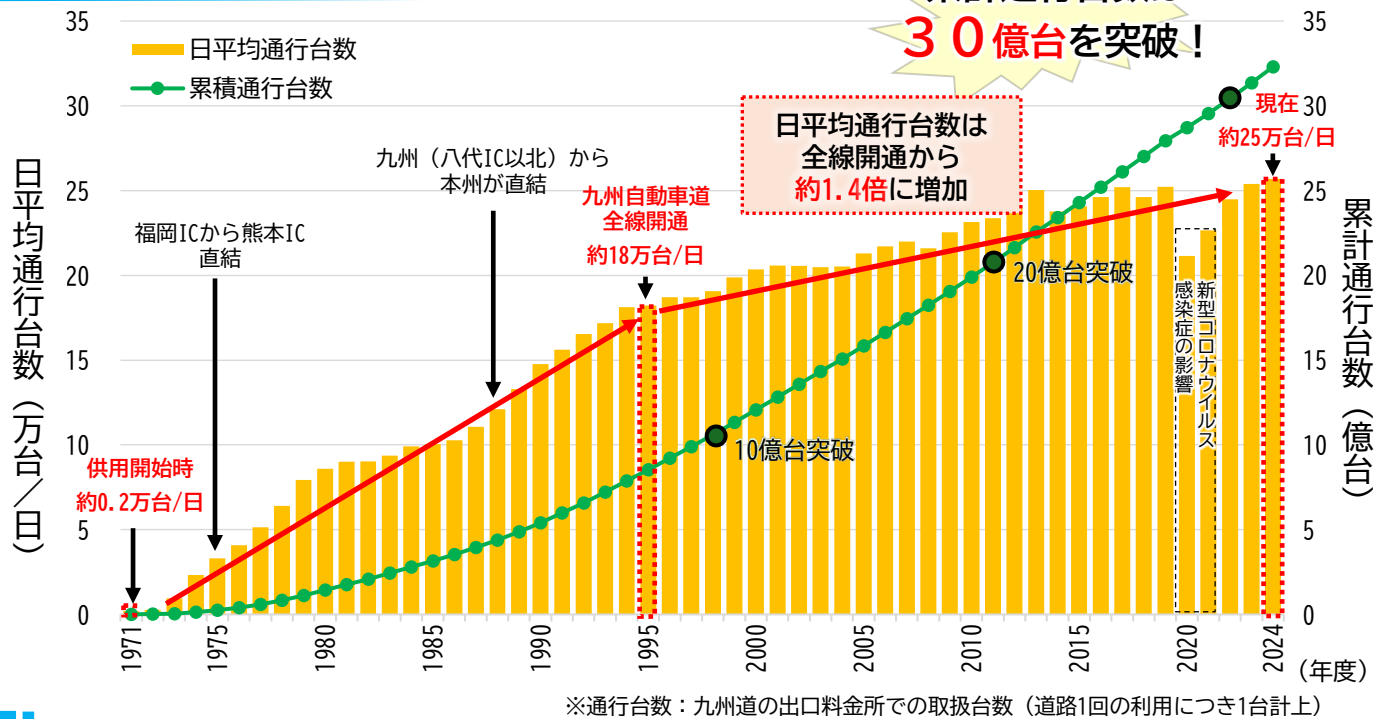
—：NEXCO西日本が管理するその他の高速道路

—：他の高規格幹線道路（NEXCO管理に含まない）

交通量の推移と経済波及効果 ～ 九州自動車道整備による経済波及効果 ～

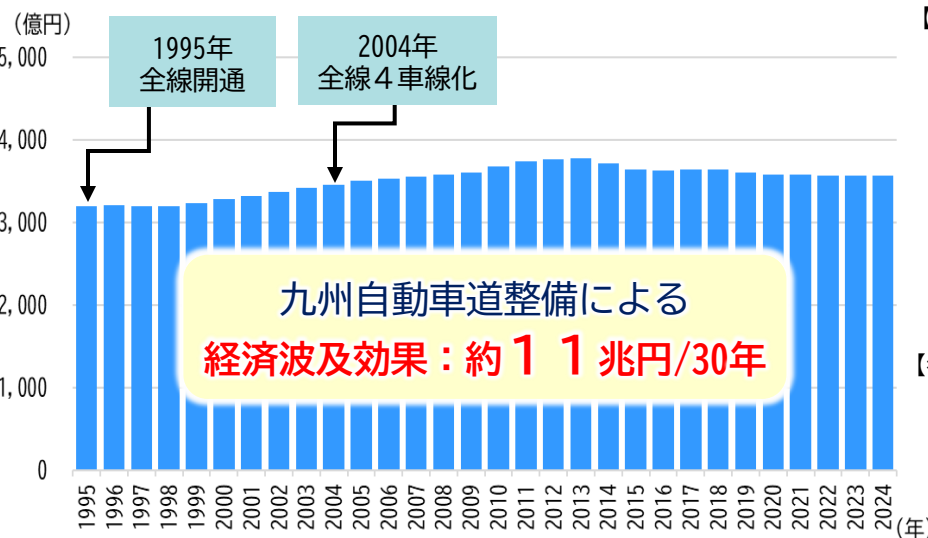
○九州自動車道は累計30億台以上の車両が通行しており、九州の物流や人流を支えています。
○九州自動車道が整備されたことによる経済波及効果は、1995年の全線開通から30年間で約11兆円にのぼり、九州自動車道の沿線地域へ大きな影響を及ぼしています。

九州自動車道の通行台数



九州自動車道 開通30年間の経済波及効果

九州自動車道整備による経済波及効果

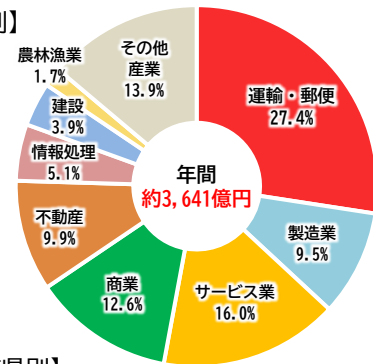


SCGE（空間的応用一般均衡）モデルにより、2015年の社会経済状況を基準に九州自動車道あり/なしの場合の社会経済状況を推計し、GRPの差を経済波及効果として計測。社会経済状況推計の基礎となる所要時間は、1995年（全線開通時）と2015年の2時点について、NITAS（総合交通分析システム）を基に計算している。

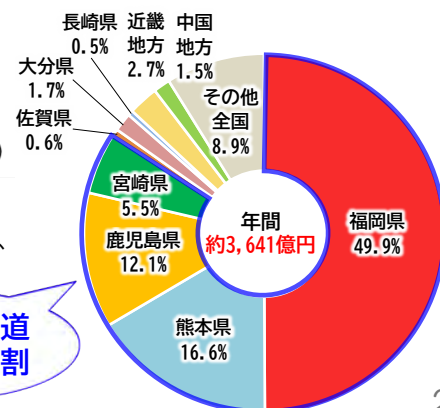
業種別・都道府県別 経済波及効果

<2015年の社会経済状況より算出>

【業種別】



【都道府県別】



九州自動車道沿線が約8割

地域産業の活性化

～ 未来の生活を拓く半導体製品の輸送への活用 ～

- 半導体製造に必要な地下水が豊富な九州は、1970年代から空港・港湾や高速道路近くに半導体関連事業所が進出・集積し、「シリコンアイランド」と呼ばれています。
- 博多港・福岡空港においては、**半導体製品を多く海外へ輸出**しており、その輸送には**高速道路を利用した安定した輸送**が不可欠です。
- 2022年のTSMCの熊本進出発表後、九州では半導体関連事業所の進出や設備増設が急増しています。

九州の半導体を世界へ

■半導体関連主要企業・工場の分布



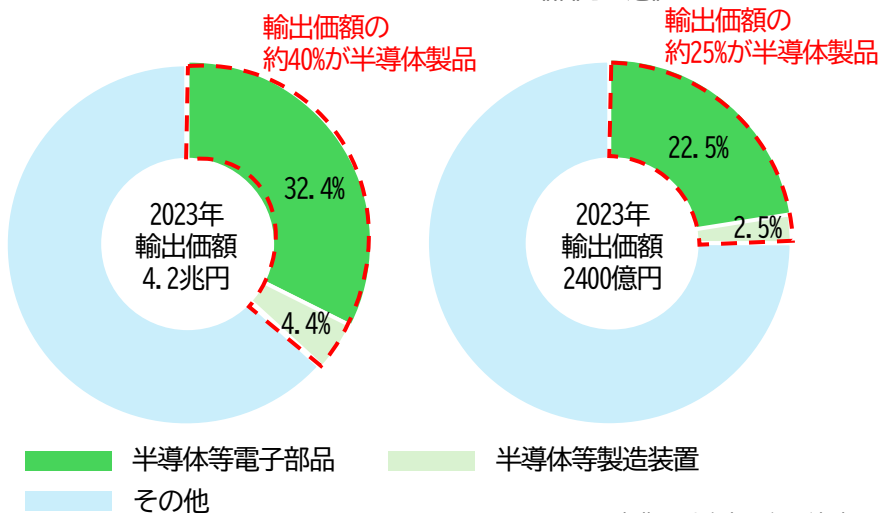
出典：九州経済産業局「九州半導体関連企業サプライチェーンマップ（2022年3月）」、九州経済産業局「九州経済の現状（2023年版）」

■半導体製品の輸出規模

九州道から博多港・福岡空港、九州の半導体製品は世界へ

《博多港》

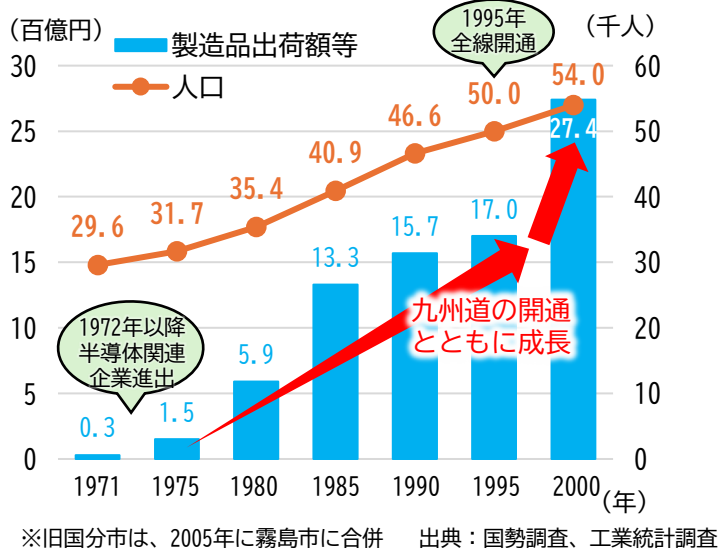
《福岡空港》



出典：財務省 貿易統計

九州道沿線地域で半導体を中心に地域産業が活性化した事例

半導体関連企業が進出した旧国分市※における製造品出荷額等及び人口の推移



九州道沿線地域で同様に半導体関連企業の誘致が進み九州は「シリコンアイランド」と呼ばれ、発展してきた

《TSMCの概要》

- 台湾積体回路製造 (TSMC) は、世界最大の半導体受託製造企業。
- 熊本工場で量産される半導体は、国内外の企業に供給されます。



TSMC熊本工場操業に伴い、福岡～熊本間の半導体精密機械の輸送量が増加しています。

半導体関連製品は、路面の段差による振動や信号停止時のブレーキなどにより破損が懸念されるため、九州自動車道を利用して輸送しています。最寄りICまでの距離を気にする顧客も多く、高速道路は、配送時間の短縮にも寄与しています。【福岡県の物流会社】

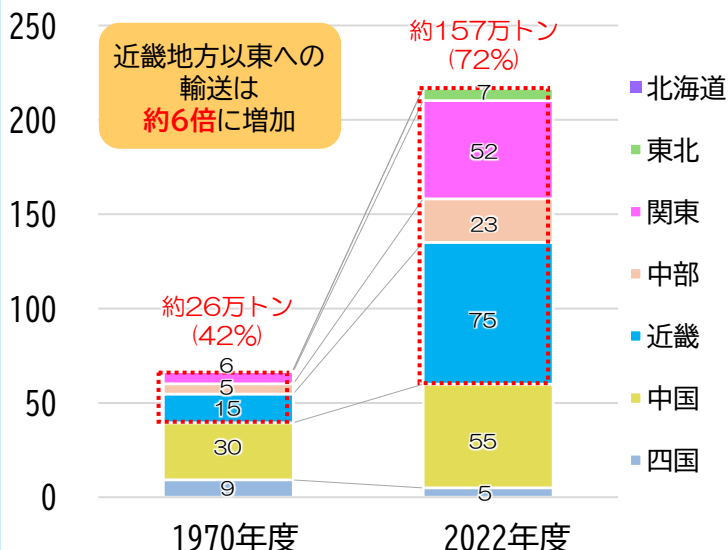
地域産業の活性化 ～ 九州から新鮮な農水産品を届ける ～

- 九州自動車道沿線県からの自動車による農水産品輸送量は、**開通前から約6倍**、特に**近畿**
以東の割合が増加しています。
- 全国1位を誇る鹿児島県の養殖ぶり類は、九州自動車道の利用により、鮮度を保ったまま
輸送が可能になり、東京中央卸売市場での取扱数量も大きく増加しました。

九州自動車道により輸送される農水産品

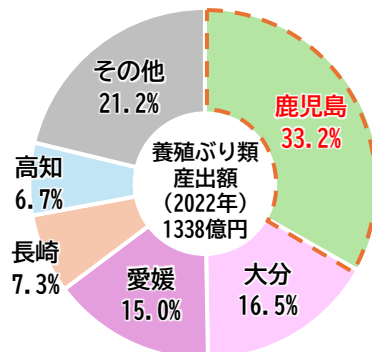
■ 自動車による農水産品の輸送量
(九州自動車道沿線5県発※→九州外着)

(万トン)



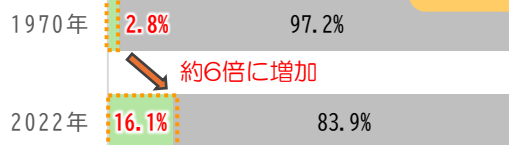
※福岡県、佐賀県、熊本県、宮崎県、鹿児島県
出典：貨物地域流動調査

■ 鹿児島の養殖ぶり
【養殖ぶり類の産出量】



出典：漁業・養殖業生産統計年報

【東京都中央卸売市場での取扱数量】
鹿児島県



出典：東京都中央卸売市場市場統計情報

鹿児島県の
ぶり養殖は日本一



出典：東町漁協協同組合

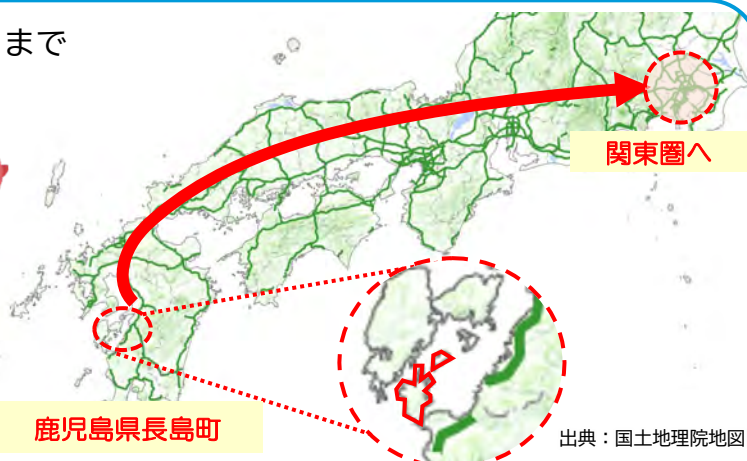
鹿児島の農水産品が
東京へ進出

鹿児島の『養殖ぶり』が関東の食卓へ届くまで

消費者に美味しい魚を届けるには、
輸送時間の短縮が必要不可欠です。

九州自動車道などの高速道路を利用することで、
関東へのトラック到着は翌日の夕方、2日後に
は店頭で並ぶことができます。

【鹿児島県 東町漁協】



鹿児島県長島町

出典：国土地理院地図

初日 長島町出発



出典：東町漁協協同組合

翌日 関東圏の卸売市場へ



出典：東京都中央卸売市場

2日後 店頭・食卓へ

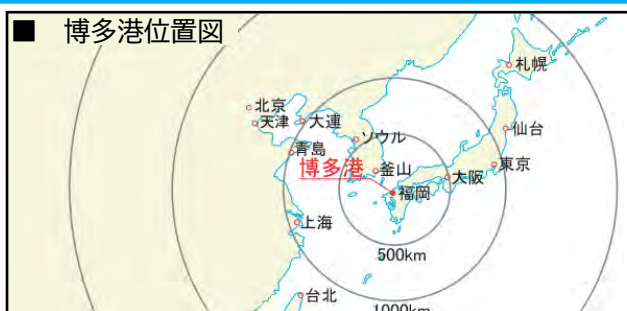


出典：東町漁協協同組合

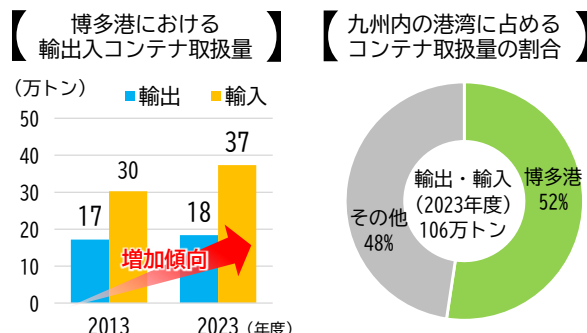
物流と人流への貢献 ～ アジアのゲートウェイと九州全域を結ぶ ～

- アジアと地理的に近い博多港は、アジアとの輸出入コンテナ取扱量が増加しています。博多港に向かう貨物車の約3割は九州自動車道を利用して、「**アジアのゲートウェイを支えるインフラとして機能**」しています。
- アジアからの外国人観光客の多くは「九州エクスプレスウェイパス（KEP）」を利用してレンタカーで周遊観光しており、九州自動車道は**外国人観光客の移動にも貢献**しています。

アジアの玄関口 博多港

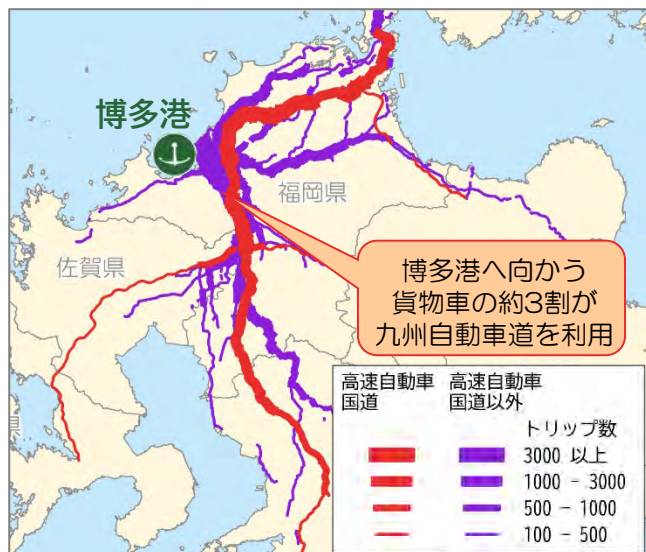


出典：福岡市「博多港湾計画図（令和2年4月）」



出典：全国輸出入コンテナ貨物流動調査

博多港に向かう貨物車の利用経路



※箱崎ふ頭臨港道路を通過する貨物車（軽貨物車を除く）のトリップの利用経路を集計

出典：ETC2.0プローブデータ（2023年11月）

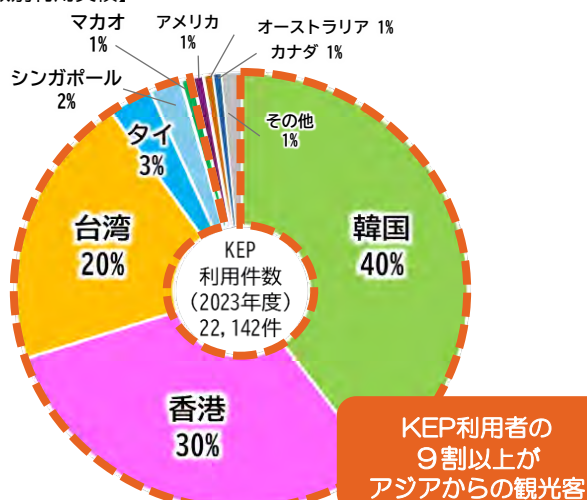
九州を周遊する外国人観光客

九州エクスプレスウェイパス（KEP）

九州エクスプレスウェイパス（KEP）は、九州地方を旅行する外国人観光客向けの高速道路定額通行パス（NEXCO西日本管理区間）



【地域別利用実績】



KEPを利用した周遊ルート（例）

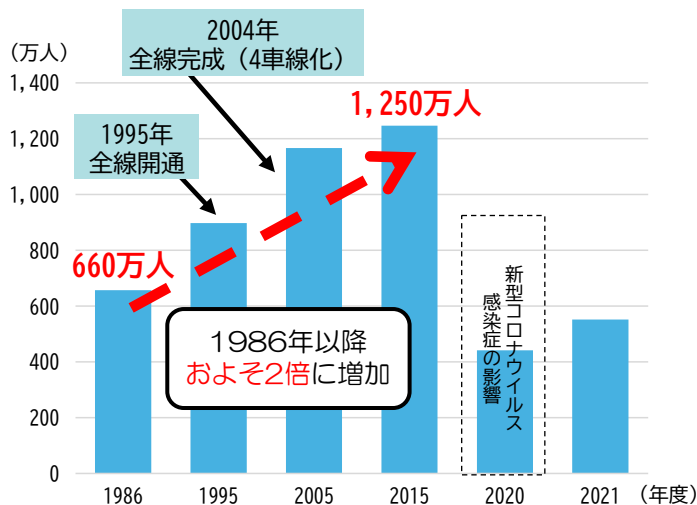


高速バスによる利便性の向上 ～ バス王国・九州の移動を支える ～

- 九州では、1973年に福岡～熊本を結ぶ高速バスが運行開始されました。九州内主要路線の**高速バス利用者数は1986年以降およそ2倍**に増加しています。
- 2007年に九州自動車道基山パーキングエリアにある**高速基山バス停**が、**九州各地への高速バスの乗り継ぎ拠点**として整備され、2024年に「九州MaaS」もスタートし、高速バスの利便性がさらに向上しています。

九州の移動に欠かせない高速バス

高速バスの利用者数の推移



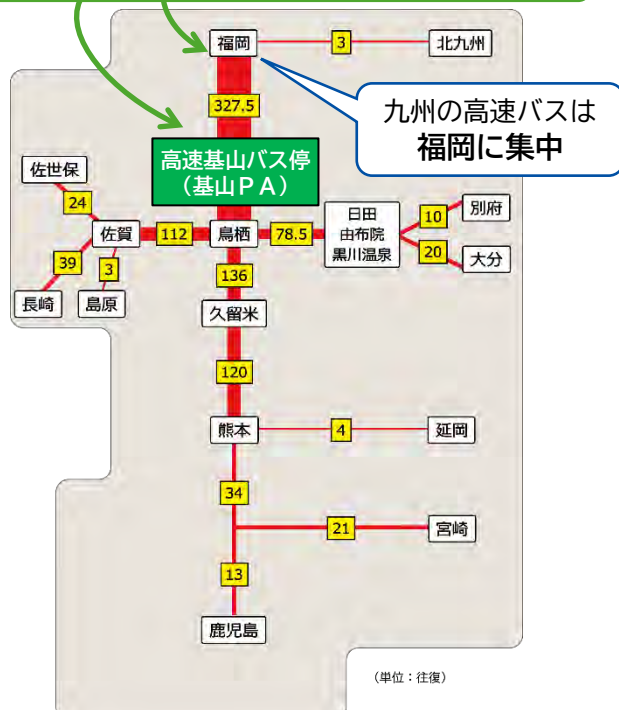
※系統キロ100km以上（高速道路利用50km以上）の路線、各空港線を中心とした九州域内を運行する主な路線を対象

出典：国土交通省 九州運輸局
「高速バスの輸送人員の推移」、「九州運輸要覧」、「九州の高速バス」

高速バス運行状況 (2025年7月時点)

整備前：福岡での乗り換え

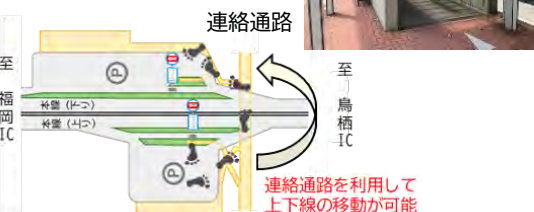
整備後：高速基山バス停で乗り換え ⇒ **時間短縮！**



出典：西日本鉄道㈱ 他15社

九州バスネットワークポータルサイト「@バスで」

九州道 高速基山バス停を利用した高速バス乗り換え



九州MaaS

九州中の電車、バス、飛行機、船、あらゆる移動サービスが連携して、スマホから**最適ルートの検索、予約、デジタルチケットの購入**ができるシステム。高速バスチケット「SUNQパス※」も販売。

※SUNQパス：九州7県および下関・長門(山口)の高速バス・一般路線バスのほぼ全線と一部の船舶が乗り放題となるフリーバスチケット

出典：一般社団法人九州MaaS協議会

災害復旧活動への貢献

～ 被災した道路の代替路確保や孤立した集落への支援 ～

- 令和2年7月豪雨の被災により通行止めとなった国道219号のネットワーク機能を分担するため九州自動車道 八代IC～人吉IC間を**代替路とした無料措置**を実施しています。
- 高速道路のICがない坂本PA周辺では、国道219号の被災により交通が分断されてしまったため、坂本PAの**緊急開口部**を活用し、生活支援をしています。
- 災害時には、危険物積載車両の通行が禁止及び制限されている肥後トンネルにおいて、全国の高速道路で初めて特例的に通行できる対応を行い、九州自動車道により**被災地へ燃料供給を可能**にしました。

九州道を活用した災害復旧・復興支援

■「令和2年7月豪雨」

代替路とした無料措置

無料対象区間：九州道 八代IC～人吉IC
実施期間：2020年7月 7日8：00～

国道219号の被災により、
高速道路を代替路として利用できるように
代替路（無料）措置を実施

緊急開口部の活用（坂本PA）

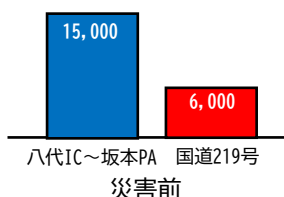
対象車両：緊急車両、地元車両
利用期間：上り線 2020年7月 9日 9：00～
下り線 2020年7月13日 14：30～

地域間を結ぶ道路が被災した国道219号沿線の
災害復旧および生活支援を目的として
緊急開口部を活用した



災害前後の区間交通量の比較（台/日）

※災害前の交通量は
H27全国道路・街路交通情勢調査の結果を引用



代替路（無料）措置により
国道219号の交通を補完



緊急開口部（坂本PA（下り線））
※運用開始直後

危険物積載車両の特例的な通行対応



全国の高速道路で初めて、
災害時の特例としてエスコート通行方式による通行を実施。
2020年7月6日から9日間で
タンクローリー72台が被災地へ燃料供給を行った。

※エスコート通行方式

石油等を輸送するタンクローリーについて、前後に誘導車を配置（エスコート）するなど通行の安全を確保する場合には、長大トンネル等の通行を可能とする通行方式



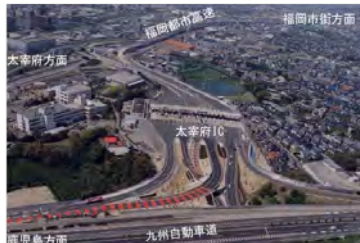
エスコート通行状況

地域生活の充実や地域経済の活性化 ～ さるなる利便性向上のために進化する九州道 ～

- 福岡都市高速道路との接続により九州最大都市である**福岡市街へ直通が可能**となりました。接続により増加した交通量に対応するため太宰府ICにおいては**渋滞対策を実施**しています。
- スマートICの整備により、**地域生活の充実や地域経済の活性化に寄与**しています。

福岡都市高速と接続（太宰府IC・福岡IC）

1999年に太宰府IC、2002年に福岡ICが福岡都市高速と接続し福岡の市街地へ直結するネットワークが完成。



太宰府IC



福岡IC



出典：国土地理院地図

九州自動車道 太宰府IC～筑紫野IC間 渋滞対策

太宰府ICでは、平日の夕方に顕著な速度低下が生じていた。2021年3月に車線運用を変更した結果、交通集中による渋滞は大幅減少。

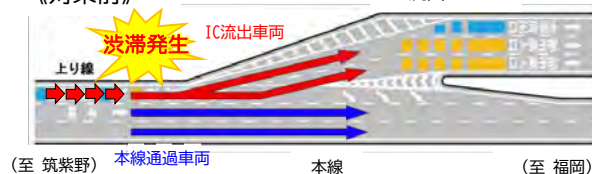
《 渋滞発生回数（回/年度） 》

■ 休日 ■ 平日

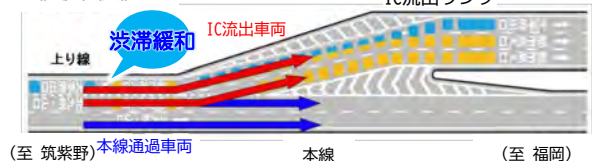


※太宰府ICを起点とし、速度40km以下で渋滞延長1km以上かつ15分以上継続したものを集計。

《対策前》



《対策後》



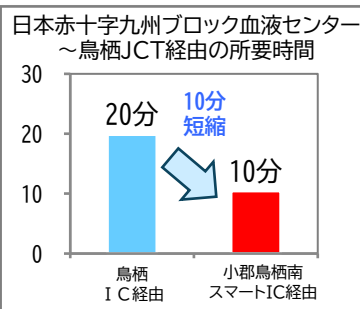
スマートIC整備で利便性が増す九州道

九州自動車道は8箇所のスマートICが供用されており、2024年度だけで1千万台以上が利用。2024年には小郡鳥栖南スマートICが開通。地域生活の充実や地域経済の活性化に寄与。

《九州自動車道にあるスマートICの出入交通量》

出入交通量（百万台/年度）

スマートIC数（箇所）



出典：平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査（所要時間は混雑時旅行速度で算定）